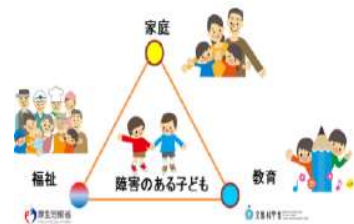


## 主体的に生きる権利は公平に



主任児童委員 松浦和代

「きらっと7号」に掲載されておりました「公平」という言葉は、すべての子どもたちが主体的に生きることができる権利であり、生まれてきたすべての子どもたちに与えられるものです。そして、すべての子どもが、生まれもった特性を活かして、よりよい人生を歩んでいくためには、幼児期に速やかに福祉の手を借りることが大切です。様々な困難やニーズに対し、それぞれの専門分野の方々が、深い愛情をもって、適切に支援をしています。

私は、12年間の主任児童委員の活動を通して、親御さんの考えで、子どもたちの生活が、いかようにもなることを目の当たりにしてきました。

今年に入って、コロナ禍で緊急事態宣言を受けステイホームとなった時、どのようなことを感じましたでしょうか。私は、日々の生活を見直すチャンスともなりました。コロナ前を振り返ると、慌ただしく毎日を送り、その中でもゆっくり家族と向き合っていたつもりでしたが、そうでなかったことに気付きました。これからの仕事や子育ての在り方も、コロナ禍で様変わりしていくのではないのでしょうか。

さて、子どもたちは、休園・休校となった最初の頃は、家族と楽しく過ごしていたようですが、しばらくすると、先が見えないためか、友だちに会えない、遊べない、お話しができないなど、精神的にバランスを崩し、行き場を失ってしまったようでした。

子どもだけでなく、親御さんも大変な思いをされていました。乳幼児を育てていらっしゃるご夫婦は、同時にテレワークになったため、「親が家いるのに遊んでくれないと泣かれてしまい、とても大変でした。どうすればよかったのか・・・」と、最近になって相談を受けました。核家族化し、おじいちゃんやおばあちゃんが同居または近所に住んでいないご家庭が増え、大変な思いをされていました。このような時、福祉の方々が力となって、必要な支援をすることができます。

私には、障害のあるお子さんを育てている友人がいます。27年の付き合いですが、出会った頃は「私の気持ちなんて分からないでしょ！」と言われたこともありました。ですが、かかわりを深め、少しずつ絆を深めることができ、今では何でも話せる親友になりました。子育てを通じてできた仲間は、私にとっての宝物です。

この世の中を生きていく限り、「公平」は、大切なことです。子どもが主張してきたことに耳を傾け、

どうしたいのか、どうすれば目的が達成できるのかを一緒に考えていかなければなりません。そのためには、たくさん会話をして気持ちに寄り添っていかなければ、本当の想いは汲み取れません。

この先、AI を使った生活が増えていくようですが、人の気持ちは、何千何万のデータを入力しても、伝えられないものもあります。真心のこもった温かい言葉をたくさん使って、表情を豊かにして、子どもに語り掛け、指導し、人を育てていきたいものです。

しかし、やってはいけないことをした時には、叱らなくてはなりません。その時は、どうしていけないのか、その理由を丁寧に伝えると、理解が深まります。あるお母さんは、「忙しさにかまけて、ついつい訳も言わずに『それはダメ』と言ってしまい後悔するのです」と話してくれました。子どもはその場その場の場面を焼き付けて記憶し、体験を通して学んでくので、最初に分かるように説明をしないと同じ失敗を繰り返してしまいます。

子育ては親育てでもあり、多くの失敗を経験して親も成長します。是非、お子さんと一緒に、いろいろな体験をして心豊かに、頭の中の引き出しをいっぱいにしてください。また、同学年の子・年上、年下の子と遊ぶことも大切です。「公平」が分かれば、年の差のある仲間にも優しく接することができるようになります。

ひとりで悩まず、福祉を活用しながら、地域の支えを得て、前向きに歩んで欲しいです。